



## 特集 令和2年度事業報告



「古紙回収作業：近隣住宅を巡回します」  
九品仏生活実習所

### 5回目の「やまゆりの日」に臨む

#### トーク

7月26日、「津久井やまゆり園」で殺傷事件が起きた日を、神奈川県知的障害施設団体連合会は「やまゆりの日」と定め、事件を風化させないよう集会を開いています。毎年この時期に行われる研修を通して人間がどういう生き物なのか考えさせられます。それは、優性思想について考え続けざるを得ないからです。歴史上では世界各国が優性保護政策を行い、日本も例外ではありませんでした。戦後は遺伝性疾患のみならず、ハンセン病、精神疾患にまで強制不妊手術の範囲が広がりました。優生保護法は1948年から48年間継続し、長い間苦しんだ人たちが現在も国と裁判を行っています。そして、今尚、世界中で障害者差別や人種差別、ジェンダー差別等が無くならない事実には優性思想が透けて見えます。人間に優劣をつけ、劣の存在を否定するような卑屈な思想に陥りやすい危うさを人間はなぜ共通して持つのでしょうか。

この問に答えるためには、常に自分の言動や感情を振り返る必要があります。人と比較して、歪んだ自己肯定感を得ようとする自分に気づき愕然としますが、その気づきの積み重ねが優性思想を遠ざけることになっていきます。人間は弱いからこそ繋がりが、助けあう社会が必要ですが、社会に枠ができ、孤立し生きにくい状況にある人が増えている現実があります。枠を取り除くカギは優性思想の排除だと思えます。

こんなことを考えていた時、次の記事が目にとまりました。「1991年生まれの永井陽右さんは、大学在学中にソマリアの大飢饉と紛争を知り、2011年にNGO『日本ソマリア青年機構』を設立、16年英国で紛争研究修士課程を卒業。今年4月には仲間と共に、ソマリアを中心としたテロ・紛争の解決に取り組むNPO法人『アクセプト・インターナショナル』を設立し、テロリストと交渉しテロ組織からの脱退を促し社会生活に戻す活動をしている。『命の危険を顧みず、何故他国の人の支援をするのか』という問いに、『世界で一番いじめられている人を支援したかった』と答えた。優性思想から遠いところにいる多くの若者に刺激を受け、当法人でこれから始める「断らない相談」の開始にあたり勇気ももらいました。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 高橋 信夫

# 令和2年度 社会福祉法人武蔵野会 事業報告

## 持続可能性の追求と基本方針

少子高齢・人口減少が加速する中、武蔵野会は基本方針を「定常化に徹し、地域共生社会実現のために、法人規模の拡大ではなく、法人の役割を拡大する」とした。10年後を見据え、持続可能な武蔵野会をより強く意識した法人運営の継続を意味して

業務執行会議は、執行理事が人材育成・防災・人事制度・法令遵守・建替及び資金計画のプロジェクトの中心となり取り組みを進めた。人事制度委員会は、人事考課制度と給与表の見直しに着手した。人事考課制度は、武蔵野会が求める職員像の再確認であり、次年度の完成を目指した。給与表は、5年先を見据えて改正の準備に入った。入所施設の建替・移転・新築は多くの資金が必要であり、法人の支出と他機関からの融資に加え、ファンドレイジングを視野に入れた。コンサルタントを導入した。コンプライアンス委員会でもコンサルタントを入れ、法人のIT環境を把握し、法令遵守強化のため、日常的にIT環境が点検できるように手引書を作成することになった。

の課題（貧困、孤立、8050問題、ひきこもり、虐待、子どもの貧困等）を職員全体で共有し、できることから支援活動を実施し、継続する姿勢を重視した。SDGsや企業CSRを意識し、法人は広域を対象に、各施設は地域福祉のネットワークの核として役割を拡大することを目指した。

法人は、東社協の地域福祉推進委員としてワーキングに2年間参加し、報告書の作成に関わった。報告書の中心は令和3年から施行された重層的支援体制整備事業（断らない相談支援）の推進であり、武蔵野会も「断らない相談窓口」設置のため、資金調達も含めコンサルタントを導入し検討を進めた。各地区から委員を選出し、経験ある相談員の採用で開設準備が進んだ。

## 人材確保と育成

少子高齢、人口減少社会で事業を持続可能にする要素は人材確保であり、武蔵野会は、職員の確保だけでなく、運営の中心となる役員や施設長の高齢化への対応も必要である。

採用は、コロナ禍においても、本部担当者を中心にオンラインで説明会を開催、SNS等で継続した情報を発信するなど着実に応募につながっている。

## プロジェクトから全役職者が対応する委員会へ

部の余暇活用プログラムを継続した。職員から要望が多かった子育て支援プロジェクトを再開し、子育てにやさしい職場環境への検討を実施した。採用関係は、法人ホームページを刷新して情報発信を行った。求人媒体も様々なニーズに答えられるよう試行錯誤を行い、数値化も含めた分析を実施。各大学等へは、職員採用をしている学校は、職員採用を希望する学校の採用担当者、施設長、職員の訪問により応募の促しを計画した。地域拡大の検討就職サイトのWEB媒体に乗せる写真や原稿、また時期等を考え、費用対効果の高い募集を毎年実施した。エバンジェリストは継続して活動できるように担当職員の定期的な追加等の協力要請を各施設に行った。

内定受諾後の採用辞退防止のため、施設行事や実践報告会、法人セミナーへの招待、インターシップ等の有償での採用施設実習など、各施設でフォロー体制を充実させ、内定者研修等を実施する予定だったが、コロナ禍のため、できる範囲で実施した。現状、福祉職を希望する母集団の減少は年々加速しており、入所施設の女性職員不足はより深刻で、法人全体の課題となっている。このため新たに外国人労働者導入の検討を始めた。今年も単年度の募集ではなく、小中学校学生、短大、大学などあらゆる機会に福祉を語る機会を作り、母集団の増加に尽力する。福祉学部に関わらず対象大学を拡げるとともに、年代を広く募集をかける給与体系の見直しも検討する。

今までの4つプロジェクトは、新たなプロジェクトも併せて「研修・防災」「練馬福祉園建て替え」「コンプライアンス（情報セキュリティ）」「人事検討委員会」となった。研修委員会、メンバードである役職者による組織的な運営が進んだが、新型コロナウイルスへの対応のために、全ての研修をオンライン化した。防災に関しても、委員を中心とする法人総合防災訓練が3年目となり、法人内で定着した訓練となった。「コンプライアンス」には、具体的な取り組みが遅れていた法人独自の情報セキュリティ構築のために、外部コンサルタントと契約を結び、次年度の構築準備を行った。「人事検討委員会」は、人事考課制度、給与、職務基準の見直しの準備として、コンサルタントの選定を行い、全施設長から人事制度に対するヒアリングを行うとともに、次年度に向けた検討実施の準備を行った。プロジェクトは、新たに法人全役職者を担当者とした委員会制度に移行し、年度途中から開始した。委員会ごとの実施状況に差はあったが年度末には活動をまとめ、次年度計画を策定し、次年度にはより必要な成果を求めていく。

## 建物維持、資金調達

建物維持につながる建て替え計画や大規模修繕計画は、練馬福祉園の建て替えにおいて、

職員育成は、役職者育成が課題だが、その役割を中心とする研修委員会が研修計画の作成と実施に携わり成果を上げた。コロナ禍で取り掛かりは遅れたが、ダイアログ研修を始めとした各種研修はオンラインで実施し、15分単位の講座を視聴するWEBでの基礎研修も定着した。

## 第5期中期計画の3年目

計画当初から柱とした「サービスの質の向上」「地域社会への貢献」「財務基盤の安定化」「人材育成」「人事制度・組織強化」を、事業安定の基本とする中、2年度は新型コロナウイルスのパンデミックが起これり、感染予防による利用者、職員の安全を守りつつ運営を継続することが第一となった。このため、多くの人と交流することが難しく、各施設で進めた地域公益活動の多くが中止、延期となった。コロナ禍の生活は今までと違う新しい様式が生み出され、特に様々なオンライン化は、サービスの新しい形を生み出し、職員側も会議、研修、打ち合わせ等で活用し、これまでになかったメリットも享受することができた。地域公益関係は、対面交流が難しく、年度後半から規模、対象を狭めて実施する事業所も増え、工夫しつつ活動を行った。今後も中断することなく工夫しながら取り組み、努力を継続する。

## 採用、福利厚生

福利厚生は、365日24時間受付のメンタル相談も含めた健康ダイヤル、むさしの生活倶楽

法人、施設職員、コンサルタントとの定期的な話し合いが行われ順調に進んだ。大島地区については、保護者代表と大島地区施設長、本部役職者で建て替え委員会を発足させ実施した。次年度には土地の取得をするため2か所を候補とし検討を進めた。法人の資金、融資、寄付金などを合わせた資金計画をコンサルタントと契約して、ファンドレイジングを導入するなど、資金調達について検討を進めた。法人運営を持続可能にするための給与体系の見直しには、人事制度の見直しとともにコンサルタントを導入し、施設長との面接結果や財務資料を分析し、現状での課題を明らかにし、次年度の改正につなげた。

## 防災

ここ数年の自然災害の増加、いつでも起きる可能性がある地震や火災への防災対策に、避難の際の新型コロナウイルス感染防止策が加わり、防災委員会では、災害時のBCPと新型コロナウイルスの推進行い、本部を除いた概ね作成が終了した。法人全体の防災訓練は回数を重ねることで定着した。安否確認については、予告なしの訓練でも迅速な報告ができるようになった。防災委員会が発信している防災委員会の通信も職員の意識の喚起に効果的だった。日本福祉大学の提携法人の防災ネットワークでは毎年研修や活動を継続してきたが、コロナ禍で実施は見送られた。

## むさしの武蔵野 レジ袋 有料化から1年

2020年7月のレジ袋有料化から1年が経ち、買物を不便に感じる人も多いと思います。

「食料品をマイバックに入れるのは不潔だし、レジ袋はゴミ捨てに便利です。ごみを入れたまま燃やすことも問題ありません」と、そもそもそういう考え方をする人が多い中、環境大臣は「不便極まりないのは申し訳ないです。レジ袋を全部無くしてもプラスチックごみの問題は解決しません。それが目的ではありません。この有料化をきっかけに、なぜプラスチック素材が世界中の問題となり取り組まれているのか、そこに問題意識を持って一人ひとりが始められる行動につながってもらいたい」と言っています。大臣は「レジ袋有料化でプラスチックごみの問題は解決せず、目的でもない」と明言しています。では、この政策自体は何のためにやっているのでしょうか。大臣は「レジ袋有料化の目的は国民への『啓発』が目的だ」と言っています。大臣の主

張はプラスチックごみの問題を有料化という手段で国民に認識させると言っているのに等しいと思います。

ある企業が解析したデータでは、1年間の平均買回数約112回、そのたびに5円のレジ袋を買うとすると、年間560円の出費です。エコバッグはサイズや材質で大きく価格が変わるため一概には言えませんが、仮に3000円のエコバッグを買った場合、600回以上の買物をしないと元が取れない計算です。600回と言えば6年近くかかります。同じエコバッグを6年以上使い続けることが可能なのか。元が取れる前に破損や紛失する可能性が高そうです。エコバッグを洗う水道代や洗剤もエコロジーの観点でどうなのかと考えてしまいます。レジ袋の有料化が、国民に対して家計や環境について考え直すいい機会を与えていると感じました。

大島恵の園 施設長 宗 信介

法人単位資金収支計算書

(自) 令和2年4月1日 (至) 令和3年3月31日

(単位: 円)

Table with columns: 勘定科目, 予算(A), 決算(B), 差異(A)-(B). Rows include 事業活動による収支 (Income/Expense), 施設整備等による収支 (Income/Expense), and others.

Summary rows for 前期末支払資金残高(12) and 当期末支払資金残高(11)+(12).

法人単位貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位: 円)

Balance Sheet table with columns: 資産の部 (流動資産, 固定資産), 負債の部 (流動負債, 固定負債), 純資産の部. Rows include assets like 現金預金, 不動産, and liabilities like 事業未払金, 借入金.

法人単位事業活動計算書

(自) 令和2年4月1日 (至) 令和3年3月31日

Activity Statement table with columns: 勘定科目, 当年度決算(A), 前年度決算(B), 増減(A)-(B). Rows include 介護保険事業収益, 児童福祉事業収益, 就労支援事業収益, etc.

## 武蔵野会セミナー

八王子地区

昨年度、新型コロナウイルス感染症のため中止となった武蔵野会セミナーが、6月26日に開催されました。今年度は集合型の形式をとらず、参加者がPC機器等でオンラインによってつながる形となりました。

テーマは、昨年取り上げる予定だった「様々な生きづらさを知る」ひきこもりです。多様な生き方ができる地域社会実現のために私たち社会福祉法人がどのような貢献を果たしてしていくべきなのか考察を深める機会となりました。

基調講演を筑波大学医学博士の斎藤環氏にお願いし、社会的ひきこもりの定義やオープンダイアローグ（開かれた対話）の大切さについてお話しいただきました。

第二部のシンポジウムでは、一般社団法人UXX会議代表理事の林恭子氏、公益社団法人青少年健康センター若荷谷クラブチーフスタッフの井利由利氏、NPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会本部事務局の深谷守貞氏をシンポジストに迎え、斎藤環氏の進行で議論を深めました。



オンラインで参加者がつながります

めました。当日は北海道や四国といった遠方からの参加もあり、最終的な登録アカウント数は430件とのことでした。その場でいただいた参加者からの質問に、即答いただくなどオンラインの良さを生かしたライブ感のあるセミナーとなりました。斎藤氏がおっしゃっていた「ひきこもっている人は、たまたま困難な状況にあるまともな人」という言葉が大変印象に残りました。

## 園庭の改修工事

武蔵野児童学園

3月に園庭の改修工事を行いました。砂地を人工芝に張替えたり、鮮やかなグリーンになり、施設の雰囲気も大分変わりました。

緊急事態宣言で施設内での様々な行事が中止になり、外出



人工芝の鮮やかな緑色に感激です

も出来なくなってしまうこと、子ども達は屋内でしか遊ぶことが出来ませんでした。せめて、園庭で思い切り体を動かすことが出来たらと、子ども達だけではなく、職員も完成の日を楽しみに待っていました。人工芝のお披露目当日、新しく生まれ変わった園庭に集まって来た子ども達や職員は、あまりの綺麗さに、みんな靴を脱いで靴下で感触を確かめていました。人工芝に変わってからは、子ども達も外に出て遊ぶ機会も増え、バドミントンをしたり、寝転がって日向ぼっこをしたり、汗だくで走り回ったりして、普段あまり外に出ない子ども達も、一緒に遊ぼうと誘われ、楽しそうに笑顔で過ごしている姿を見たと、とても嬉しい気持ちになりました。周りには綺麗な花々が置かれ、ベンチも設置されています。これからは子どもたちが心地よく過ごせるよう環境改善に努めていきたいと思えます。



さくら学園

さくら学園は毎年御殿場市社会福祉協議会と協力し、福祉講座に講師を派遣しています。今年も5月25日に小学4年生170名を対象とした福祉の仕事の話をしました。また救急救命の普及講習に資格を持った職員が応援に出かけています。

白鳥福祉館

白鳥福祉館では4月から講師をお招きして「健康気功」を行っています。先生が皆さんの頑張っているところをお話ししながら指導してくださるので、自然と顔もほころび、体も良く伸び、リラクゼーション効果も満点のようです。

八王子市心身障害者福祉センター

東京2020パラリンピック採火式参加団体として当センターが選出された事を受け、地区7施設で協力し、採火の際に用いる、パラリンピックのシンボルマークカラーを使った折り紙の輪飾りを制作しました。作り手の想いが、選手皆さん届きますように。

練馬福祉園

65歳以上の方と看護師、職員のワクチン接種が始まりました。接種券の発送時期が居住地によって異なるため混乱はありますが、嘱託医や近隣医療機関と

## With コロナ

### 困難な中で感じられた

大切さ

西水元あやめ園

新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機に世界中が直面し、高齢者施設である当園も利用者の方々と不安な毎日をご過ごしてきました。利用者の方を守るためには、ウイルスを持ち込まないこと、感染を拡大させないことです。職員一人ひとりが日々の感染対策を行い、感染症発生時の初動訓練やガウン・マスクの演習を繰り返し行いました。幸いだったのは、マスク等の備品が問題なく確保できたと、そして法人他施設からガウンの寄付をいただけたことです。とても心強いご支援でした。

利用者の方には様々な暮らしの辛抱をお願いすることも多かったです。特にご家族との面会をご遠慮いただくことは心苦しい思いでした。そんな中、施設の年間行事はコロナを理由に中止とせず、三密を防いだ代替企画で楽しんで頂きました。どんな時でも前向きに感謝の言葉を口にすると利用者の方から、大切なことを教わりました。

そして、ようやく利用者の方と職員のワクチン接種完了の目処が立ちました。「With コロナ」、新しい暮らしの訪れを感じます。この一年間に皆様から頂いたご支援、利用者の方からいただいた学びに対する感謝の意を



常に緊張感をもって支援します

力に替え、これからも私達は利用者の方々の安心、安全な生活、笑顔のために邁進していきます。

## クローバーアート展

九品仏生活実習所

利用者の方々が製作したアート作品を多くの皆さんに披露する機会として、世田谷地区4施設合同で「クローバーアート展」を開催しました。例年は、会場を借りて作品の展示を行います。が、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で難しく、どうにかできないかと思案した結果、オンラインを活用する開催となりました。

各施設からは今回も工夫を凝らした素敵な作品の展示がありました。駒沢生活実習所は、紙を素材にした作品が中心で、紙

人形」は令和2年度ならではの一品です。九品仏生活実習所と中町分場は、外部講師指導のもと、カラフルに色づけされた表情豊かなオブジェや版画を中心とした作品。世田谷福祉作業所は、繊細で個性的な表現の干支の絵、様々な紙を使ったちぎり絵に目が奪われます。鳥山福祉作業所は、利用者一人ひとりに渡したスケッチブックに描かれた情緒豊かな画群と、利用者職員で編成した「BBB (BlackBirdBand) バンド」の演奏活動を動画で紹介しました。

オンラインでのクローバーアート展はご家族や施設関係者など沢山の皆さんにご視聴していただいています。ご家族からは、「時間の都合でこれまで会場に行けませんでした、自宅で気軽に見られて良かったです」、「4施設それぞれの作品に特徴があり面白かったです」といった感想が寄せられています。外出が難しい方にとって、近くで作品を見てもらえるオンライン開催の良さを実感できました。

クローバーアート展のオンライン視聴期間は9月末までです。利用者の皆さんの力作を是非一度ご覧下さい。



利用者作品「11階建てのアパートメント」

協力して、任意の接種を進めていく予定です。

大島恵の園

7月7日にめぐみまつりの代替イベントを開催しました。ゲームコーナーでは魚型ヨーヨー釣りを、模擬店コーナーでは焼きそば、ポテから、チョコバナナ、かき氷、ジュースを食べて、笑顔あふれる1日になりました。

北町福祉作業所

コロナ禍で大規模修繕工事が一年間延期されたものの、すでに一階の保健相談所は新居に移転をすませ、現在はもぬけの殻となっております。改修後はシルバー人材センターが入居し、新たなパートナーとして共存共栄を図っていく予定です。

すぎな愛育園

すぎな愛育園からさらに放課後等デイサービスが4月からスタート。児童の皆さんが生き生きとはばたくように過ごせる場所にしたという思いを込めて「ふらっぷ(Flag)」と名付けました。

世田谷福祉作業所

昨年4月に施設の引っ越しという一大イベントを終えた私たちですが、引越祝い祝いで家族会からテレビを寄贈いただきました。野球の話で盛り上がることも多い私たち。スポーツ観戦などで盛り上がっていきたいと思います。

# お知らせコーナー

7月

予定はありません

8月

- 19日(木) 支援実践集表彰式 Zoom (法人)
- 20日(金) 2020東京パラリンピック・葛飾区採火式アート出展 (東堀切くすのき園)

9月

- 18日(土) わたぼうし祭 (八王子生活実習所)
- 18日(土) 第15回東京大集会 (東社協知的発達障害部会ほか5国体主催) ライブ配信

新型コロナウイルス感染症予防のため、行事の開催を中止・縮小する場合があります。開催の有無等、詳細は各事業所にお問い合わせください。



## スロープ付き 軽ワゴン車

### 東堀切くすのき園

この度、東京善意銀行を通じて、一般社団法人生命保険協会のスロープ付き軽ワゴン車をいただきました。車いすを使う利用者でも気軽に、安全に乗車できます。葛飾の下町で小



車椅子の方も乗り降りが楽です

回りが利き安心して運行できる車両の配備を検討していたとこ

ろで、開設後20年目を迎えた当施設の大変うれしいニュースとなりました。利用者の皆さんの様々な活動に役立てていきます。生命保険協会東京都協会の皆様、本当にありがとうございます。

## ボッチャランプ

### 東堀切くすのき園

間もなく始まる東京2020パラリンピック競技大会の正式種目であるボッチャ。障害の有無や世代を問わず同レベル、同じコートで楽しめ、健康増進や人の交流にもつながるパラスポーツとして全世界で人気が高まっています。

この度、ボッチャの振興やアスリート支援を通じ社会貢献事業に取り組む株式会社CAC Holdings様より、デンマーク製「スーパールンプ」をいただきました。身体の障害のために自分でボールを投げるのが難しい場合、見た目が幅の細い滑り台のような「ランプ」とよばれる勾配具を使い、アシスタントの



これで狙いを定めます

サポートで競技に参加することができます。このランプは大量生産されておらずとても高価なものなので、今回の寄贈に一同大変喜んでおります。当施設では早速ぴかぴかのランプを使い皆でボッチャを楽しんでいます。本当にありがとうございます。

## 武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する事業所の利用者のためにより良い環境や施設の充実、円滑な運営などを物心両面から支える組織として武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により会の拡大を図り、法人の運営基盤の確立を応援していますのでご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931  
東京都八王子市台町1-19-3  
電話・FAX 042-626-9772